

こうべ森林シンポジウム～森と人の関わりのこれからを考える～

日時:2026 年8月25日(火)16時30分～18時 30 分

場所:三ノ宮コンベンションセンター

出席者:111名

主催:神戸市建設局森林・防災部森林課

○当日のプログラム

1. 趣旨説明 黒田 慶子 | 神戸市副市長

2. 森林整備戦略の改定のポイント 高蓋 なつみ | 神戸市建設局森林・防災部森林課

3. 講演

- ▶ 「里山林の資源利用による生物多様性への効果」

丑丸 敦史 | 神戸大学国際人間科学部人間発達環境学研究科 教授

- ▶ 「里山の健やかな風景と人の営み」

山田 隆大 | 一般社団法人やまとた 代表理事

- ▶ 「竹林整備・竹資源利用と農村の魅力向上」

武野 辰雄 | 淡河バンブープロジェクト 代表

4. パネルディスカッション

- ▶ テーマ「こうべの森と人の関わり」

【パネラー】

丑丸 敦史 | 神戸大学国際人間科学部人間発達環境学研究科 教授

山田 隆大 | 一般社団法人やまとた 代表理事

武野 辰雄 | 淡河バンブープロジェクト 代表

黒田 慶子 | 神戸市副市長

【ファシリテーター】

砂山 亜紀子 | 神戸市建設局森林・防災部森林課

5. 質疑応答

○パネルディスカッションでは、「こうべの森と人の関わり」をテーマに、農業と森林の繋がりをつくりなおすためにはどうしたら良いのか、また、農村地域と都市域、市民や企業といった繋がりをつくっていくために必要なことについて、それぞれの立場から意見が交わされました。

○パネルディスカッション要旨

全体テーマ「神戸の森と人との関わり」

テーマ1:「農業と森林のつながりを作り直す」

- ・ 山の資源活用も選択肢として増やすことが、新規就農者・農業者にとっても、山の環境にとっても Win-Win となる。
- ・ 森林と田畑の距離が近く、鳥獣被害が日常化しており、個々の農地の対策だけでは効果が薄く、地域全体での費用負担も含めた取り組みをしていかなければいけない。
- ・ 都市部の人々が農業に関わる仕組みが必要。
- ・ 大掛かりな林業・農業だけでなく、個人が農業したり森に入って楽しめたりする仕組みがあると良い。
- ・ 行政支援としては、①個人所有の里山の木を「切って売る」までを含めた支援を進める、②竹林伐採後の再繁茂を防ぐための管理方法の標準化・マニュアル化を進める、の2点が必要。

テーマ2:「企業や市民・学生とのつながりを作る」

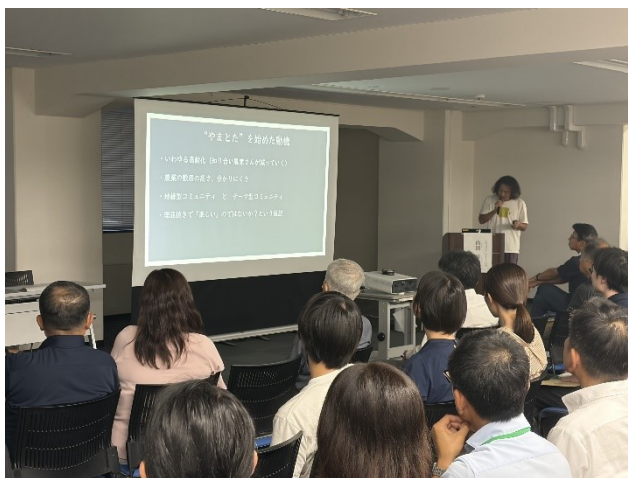
- ・ 参加の継続には、分かりやすい魅力や通い続けたい魅力(関係性・学び・自由度)が重要。
- ・ 「楽しい」、「おいしい」といったことが、参加するための入口・原動力になる。
- ・ 里山や畑を自由に使いながら、何をするのかを一緒に考えるようなコミュニティづくりが、継続してもらうために重要。
- ・ 自然体験や農村文化を魅力として伝えるだけでなく、ツアーなどを通じて、地域に経済的価値を生む形までつなげていく必要がある。
- ・ 参加者の中で生まれるギャップを埋めるには、事前説明やフローチャートの作成が重要。また、自団体で出来ない場合は、他の団体へとつなぐ。つなぐことで、団体同士の交流も進む。

○講演の様子

・丑丸氏



・山田氏



・武野氏



○パネルディスカッションの様子



以上